

須田剋太「街道をゆく」挿絵原画展

2013.10.1 | 火 | - 10.27 | 日 |

坂の上の雲ミュージアム2階ホール(無料)



松山城天守閣



宇和島の季節

歴史の記憶は、口承や文字、絵画、写真、映像などさまざまな媒体を通じて後世につたえられてゆく。口承や文字による記録は、事象の細部や前後関係を詳細につたえるうえで有効な媒体となっている。絵画や写真、映像などは、視覚的な記憶を伝承するうえで効力をもつ。とくに絵画は、作者の視点にもとづいて切りとった風景をひとつの時点で定着するとともに、時をこえてつたえてゆく強い力を発揮する。

須田剋太さんがのこした「街道をゆく」の挿絵は、いずれも歴史の記憶を豊かにたたえる作品群である。司馬遼太郎さんの独自の世界を表出した紀行文「街道をゆく」(『週刊朝日』連載)にそえられた挿絵の原画は、それだけでひとつの世界

を構築している。須田さんの原画は、いずれも強いタッチで描かれたものだ。それだけ、歴史の記憶が画面をつきぬけてせまってくる迫力をもつ作品群といえる。

須田さんの没後四半世紀に近い歳月がながれた現在、その作品のなかに歴史の記憶を確認する作業が重要な意味をもってきている。異能の画家がひとつの時点で凝縮した風景を通して、さまざまな思索が確実にひろがってゆくだろう。

(松原正毅)

展示作品は、愛媛県内の風景をあつかった挿絵原画36点(『街道をゆく』14 南伊予・西土佐の道)。そのほか、挿絵に描かれた現在の風景写真の展示を予定。

■ 関連イベント

対談 須田剋太「街道をゆく」挿絵原画の魅力
 出演者：智内兄助(洋画家)、松原正毅(坂の上の雲ミュージアム館長)
 日時：平成25年10月6日(日) 14:00~15:30
 場所：坂の上の雲ミュージアム2階ホール

智内兄助(ちないきょうすけ)

洋画家。1948年、今治市生まれ。東京芸術大学大学院油画科修了。数々の展覧会・コンクールで受賞を重ねる。1992年、宮尾登美子作「蔵」挿絵担当。以後、挿絵原画全国巡回展を開く。ジャストランペッターの近藤等則と共著の絵本「ほくが生まれた音」は、2009年9月第22回プラティスラヴァ世界絵本原画展で金牌賞を受賞。東京、ニューヨーク、パリ、ロンドンなどで個展開催。

資料協力：大阪府、大阪府立江之子島文化芸術創造センター(所蔵先) 主催：松山市、四電ビジネス株式会社

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600
 E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:http://www.sakanouenokumomuseum.jp/

- アクセス
- ・JR松山駅から [所要時間約10分] 市内電車(道後温泉行)——大街道下車——徒歩2分
 - ・道後温泉から [所要時間約10分] 市内電車(全線)——大街道下車——徒歩2分
 - ・松山空港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行)——大街道下車——徒歩2分
 - ・松山観光港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行)——大街道下車——徒歩2分
 - ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分]

